

学校現場での性教育の定着度調査結果の概要

長野県教育委員会事務局 保健厚生課

本調査は、性被害の予防のための人権教育と性教育の充実に向けた今後の必要な支援や施策を検討するため、学校における性に関する指導等の状況を確認するために実施した。

なお、調査内容は、主に平成 27 年度における性に関する指導等の状況について行った。

1 調査対象

県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校

学校種別	公立	私立	計
小学校	366	4	370
中学校	190	7	197
高等学校	103	23	126
特別支援学校	20		20
計	679	34	713

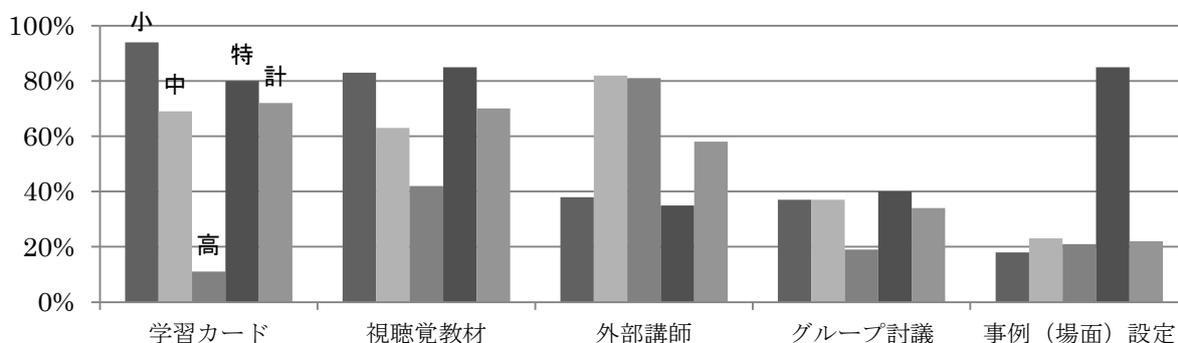
2 調査結果

(1) 性に関する指導の年間指導計画の有無

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
指導計画を作成した	309 (84%)	155 (79%)	55 (44%)	15 (75%)	534 (75%)
作成していない	61 (16%)	42 (21%)	71 (56%)	5 (25%)	179 (25%)

(2) 性に関する指導で取り入れている指導方法

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
学習カード	348	136	14	16	514
視聴覚教材	307	124	53	17	501
外部講師	142	161	102	7	412
グループ討議	137	72	24	8	241
事例(場面)設定	66	45	26	17	154



(3) 外部講師の活用

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
外部講師を活用した	142 (38%)	161 (82%)	102 (81%)	7 (35%)	412 (58%)
活用していない	228 (62%)	36 (18%)	24 (19%)	13 (65%)	301 (42%)

【性に関する指導に活用した外部講師の職種・団体】

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
保健所・市町村等の職員	83	103	54	4	244
医師以外医療専門職	32	42	24	2	100
医師	4	25	16		45
NPO等の団体	7	10	14	1	32
ピアカウンセラー	1	1	9		11
その他	31	46	40	2	119

(自由記載)

- ・ 講師の手配、謝金、授業時間の確保等に困難があり、積極活用できていない。
(小、中、高、特)
- ・ 学校からの要望は伝えやすいが、児童の実態を伝えることが難しい。(小)
- ・ 講師に関する情報が不足。(小、中、特)
- ・ 事前打合せの時間が十分とれない。(小、高)
- ・ 事後の指導時間(教師のフォローアップ)も取れない。(中)

(4) 「性に関する指導の手引き」の活用

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計	
活用した	体育・保健体育	199	58	49	6	312
	特別活動	228	116	20	6	370
	校内研修	19	9	5	1	34
	その他	42	25	21	5	93
	計(延べ数)	488	208	95	18	809
活用していない	54(15%)	34(17%)	37(29%)	8(40%)	133(19%)	

(自由記載)

- ・ 具体的な指導案がたくさんほしい。できれば学年ごとに。(小、中、特)
- ・ 実践例や展開例を、すぐに加工できるようにデータでほしい。(小、中、特)
- ・ 統計数値などデータ古くなるので、更新してほしい。(小、中、特)
- ・ 授業で使える具体的教材をもっと紹介してほしい。(小、中、特)

(5) 性に関する指導研修会の参加状況

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
研修会に参加した	172(47%)	103(52%)	63(50%)	12(60%)	350(49%)
参加していない	198(53%)	94(48%)	63(50%)	8(40%)	363(51%)

【性に関する指導研修会の参加者】

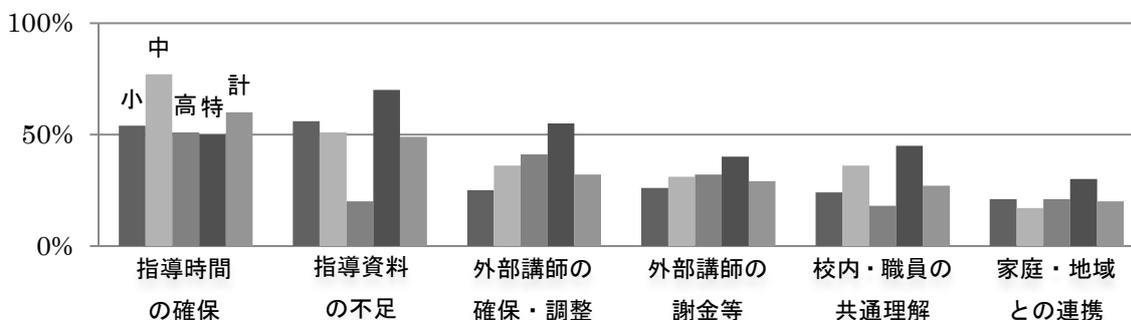
区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
養護教諭	228(86%)	125(81%)	55(56%)	9(45%)	417(78%)
保健主事	28(11%)	13(8%)	21(21%)	4(20%)	66(12%)
保健体育教諭	4(1%)	15(10%)	15(15%)		34(6%)
その他	5(2%)	2(1%)	8(8%)	7(35%)	22(4%)
計(2年間参加者数)	265	155	99	20	539

(自由記載)

- ・ 開催場所は、地区ごとなど参加しやすくしてほしい。(小)
- ・ 学級担任も参加しやすい夏休みなどの開催希望。(小、中、特)
- ・ 養護教諭だけでなく、体育主任や一般教諭の参加を校長等に明確に求めるべき。(小、特)
- ・ 具体的な指導実践、熱心な先生の模擬授業、実践報告を聞いてみたい。(小)
- ・ 3年研、5年研、10年研、免許更新講習などに位置づけ、半強制受講も必要。(小、中、高)
- ・ 手引きを使った実践発表も有効ではないか(中)。

(6) 性に関する指導上の課題

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
指導時間の確保	201	151	64	10	426
指導資料の不足	207	101	25	14	347
外部指導者の確保・調整	94	71	51	11	227
外部指導者の謝金等	97	60	40	8	205
校内・職員の共通理解	89	70	22	9	190
家庭・地域との連携	79	34	26	6	145



(自由記載)

- ・ 学校間、教員間の取組みの温度差が大きい。各学年で教えるべき内容をはっきりと県で示してほしい。(小)
- ・ 各種行事で忙しい中、時間確保と指導内容や具体資料の整備が必要。(中)
- ・ 小中連携で継続した教育が必要。入学後ばらつきがあり指導が難しくなる。(中)
- ・ 教員養成段階から性について学ぶ機会を取り入れるべき。(中)
- ・ 集団指導と同じくらい個別指導の充実が大切。教職員全体のスキルアップが必要。(高)
- ・ ワンストップ的に個別の専門相談ができる機関がない。あっても、身近でない。(中)

3 調査結果からみえてくる課題

(1) 学校全体の共通理解が不足

- 年間指導計画への位置づけが一部できていない。
- 性に関する指導が一部の教員に任せきりになっていないか。

(2) 手引きの活用が不十分

- 活用していない学校が20%程度あり、手引きで示した基本的な考え方の徹底と、手引きを活用した実践事例の積み重ねに結びついていない。
- 手引きで示した、アクティブラーニング的な学習手法の導入は相当程度進んでいる。

(3) 教員全体の資質向上が不足

- 専門研修会の参加率が伸びていない(2年間で約半数の学校の参加に止まる)。
- 同研修会への出席が養護教諭等一部の教員に偏っている。

こうした課題に加え、有識者からの意見や総合教育会議の議論なども参考にして、今後、性に関する指導充実のための対応策を検討する。